

● 調布をゆったり楽しくハッピーに!

2020年  
11月

17号

わくわく

特集

コロナに負けるな! ~ドキュメント~  
緊急事態宣言下の  
『調布市内の  
福祉事業所』

発行：調布市福祉作業所等連絡会 企画・編集：調布コミュニティビジネス推進委員会「調布アットホーム」  
デザイン：(有)バンテコングラフィックス 撮影：表紙・原子尚之

# コロナに負けるな!

## 緊急事態宣言下の『調布市内の』

緊急事態宣言下の4月7日から5月25日、  
がどう対処していたのか。利用者、保護者、



「しごと場大好き」では、マスク着用はもちろん作業やミーティング時の席の間隔も拡大



食事スペースにも仕切り板を設置



食事も一方通行にして席が向き合わないように工夫

絡を取り合いながら支援を続けました。  
今まで経験のなかった在宅支援を行な  
う中で、さまざまな発見がありました。「言  
われなくても洗い物をしてくれるようにな  
った」「残りのものを小皿に入れて冷蔵庫に  
しまつてくれるようになった」「毎日祖母に  
絵葉書を書いているうちに日付や天気を  
書けるようになった」などいろいろなエビ  
ソードが生まれました。また、課題提供に  
応じてくれた利用者からは、切り絵、貼り  
絵や裁ほう、組ひも、学習ドリル、手紙など  
日常の作業では見られなかった多くの作品  
が生まれました。

★

一方で保護者側は外に出られず、落ち着  
いて本人と向き合う時間が長くなり、「負  
担が大きい、在宅支援がこれ以上伸びたら  
限界」といった声もきかれました。一部、在  
宅が続くのが厳しい方を曜日限定の通所  
に切り替え対応したケースもありました。  
休業（閉所）、在宅支援、分散通所、半日  
通所等の態勢を段階的に切り替えて、緊急  
事態宣言期間を乗り越えました。また、施

設内では、ビニールカーテンやア  
クリル製の仕切り板などを作つ  
たり、食事も向かい合わないよう  
に机を移動、一方通行にし、時差  
を設けるなどの工夫も行いまし  
ました。一方で職員の通勤も苦勞を伴  
いました。もとよりリモートワー  
クのない仕事。公共交通機関が利  
用しにくくなった職員もいて、シ  
フトを組むのは大変でした。  
亀田施設長は、「当初は慣れな  
い在宅支援態勢や分散通所に戸  
惑う利用者もいましたが、保護者  
の理解と職員間の連携、利用者  
の適応力で、想像していたより穏  
やかに過ごすことができました。  
密を避ける運営、在宅支援や分  
散通所など、第1波からは多くの  
ノウハウを学ぶとともに利用者  
の可能性に気づかされる機会と  
なりました」と語ります。

### 「新型コロナウイルス」の動き

- 2019年 中国湖北省武漢市で  
12月 「新型コロナウイルス」が発生
- 2020年 日本でも感染者を確認  
1月15日 WHOが「緊急事態宣言」を発表  
1月28日 中国・武漢市からのツアー客を乗せた  
バスの運転手が国内で日本人初感染  
政府が「新型コロナウイルス感染症対  
策本部」を立ち上げる
- 2月1日 新型コロナウイルスを指定感染症  
として定める政令が閣議決定  
2月3日 フルーツ船ダイヤモンド・プリンセスが  
横浜へ帰港。以降、2週間の隔離検疫。  
複数の感染者を確認。最終的な感染者は  
712人に。19日に14日間の隔離解除
- 3月2日 全国の小中高等および特別支援学校、休業  
3月3日 大阪のライブハウスでクラスターが発生  
3月3日 プロ野球開幕延期を決定  
3月11日 春の選抜高校野球の中止決定  
3月11日 世界保健機関(WHO)が「パンデミック」  
相当と認定  
3月13日 株価大暴落。1万7000円割れ  
3月15日 全国15カ所でクラスター発生  
マスクの転売禁止  
3月24日 東京五輪・パラリンピック延期決定  
3月25日 外務省、海外渡航自粛を要請  
3月26日 政府、首都圏全体で外出自粛を要請  
3月30日 小池都知事が夜間の外出自粛を要請  
4月2日 全国各地でクラスターが発生  
4月3日 国内感染者が3000人を突破  
4月7日 7都府県に緊急事態宣言  
4月16日 緊急事態宣言を全国に拡大  
4月18日 国内感染者1万人を突破  
4月28日 東京の感染者が累計40000人超に  
5月4日 緊急事態宣言を31日まで延長  
5月7日 国内新規感染者1000人を下回る  
5月14日 全国39県で緊急事態宣言を解除  
5月21日 関西エリアの緊急事態宣言を解除  
5月25日 緊急事態宣言すべて解除

# 福祉事業所

この前代未聞の事態に市内の福祉事業所スタッフ…その様子を紹介します。

2月から各福祉事業所へ施設運営、職員配置などについて、厚労省や自治体から次々と対応の指示が届きました。3月になると「就労支援事業者」に「在宅支援を認める」という通知が届き、続いて他の障害福祉サービスでも同様の対応となりました。

対象事業のうち就労支援B型施設は、本来「通所者」を受け入れて仕事（福祉サービス）を提供することが設置目的です。コロナが拡がり、マスクの着用、検温、手洗い、う

が、消毒を徹底して2〜3月を乗り切りきつてきましたが、感染拡大が止まらない状況下、基礎疾患を持つ利用者が大勢いる中で、出勤時の移動、作業時の場面などでも「密」をなくすことは難しく、「通所」を続けるには厳しい状況でした。

そうした状況を踏まえての「在宅支援を認める」という通達でしたが、通所により支援を行なう事業所にとって「在宅支援」は初めてのことで。市の福祉課や市内の連絡会に加盟する福祉事業所と連絡をとりあったり、在宅での個別プログラムをどうするか職員で支援の内容や態勢を考え、

閉所・開所期間や感染防止、感染者が出た場合の対応などさまざまな協議を重ねられました。

就労継続支援B型事業所のひとつである「しごと場大好き」では、職員の協議や理事会の承認を経て、職員と利用者をつなぐグループに分け、チームごとに利用者に合わせてプログラムを決め、在宅支援が開始されました。在宅支援5チームは、本人はもちろん家族にも負担にならないように注意しながら、在宅での課題を設定し、毎日ご家族や本人と電話やメールなどで連

## 今までなかった在宅支援、分散通所などを認める通知

## 初めての在宅支援に工夫を重ねる

## しごと場大好きでは4月13日から在宅支援開始

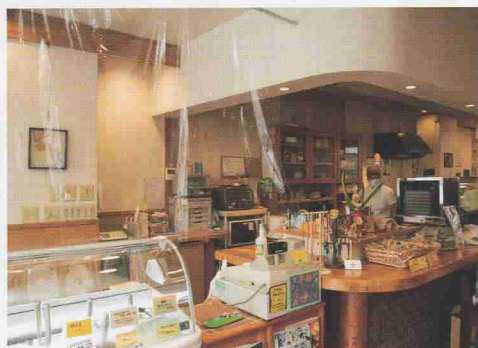
新型コロナウイルスの感染拡大による国民生活や経済への甚大な影響を抑制するために、4月7日に東京都を含む7都道府県に緊急事態宣言が発令され、4月16日には全国へと対象が広がりました。

コロナ禍でも、福祉サービスは利用者やその家族の安心した生活のために必要不可欠なサービスの一つです。多くの事業所が必要な支援を途切れさせないよう、戸惑いつつも模索しました。しかし、福祉現場での支援は基本的には「人と人が接触すること」で成立するもので、感染拡大を防ぐための「人と人とが接触しないようにする」という対策とは反し、両立が難しいという課題があります。

そのような状況の中で、各事業所とも国や自治体の通知を確認しつつ、様々な工夫をして感染対策を図り、コロナ禍に立ち向かっていました。



「調布を耕す会」が運営する「カフェ大好き」では7月の1カ月間、非常事態宣言下で利用者が制作した作品を展示する「ステイホームコレクション」を開催

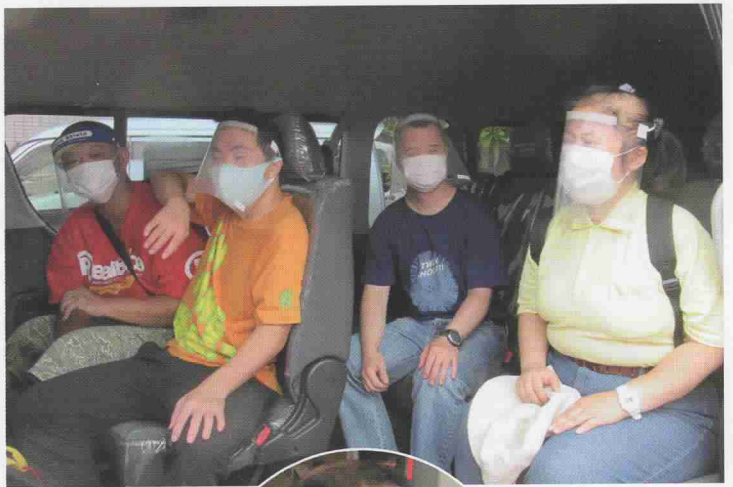


感染防止対策として、カフェでは仕切りのカーテンを設置。事業所でも、食事の際各テーブルへの仕切り設置のほか、向かい合わせにならないよう着席するなどの対策が取られた

コロナに負けるな!  
～ドキュメント～

緊急事態宣言下の

# 『調布市内の 福祉事業所』



わかばではフェイスシールドを自作。送迎時には全員がフェイスシールドを装着

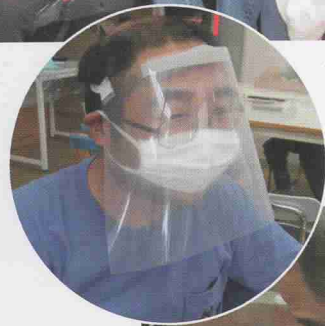


調布市障害福祉課の小島さん

調布市障害福祉課も大変でした。50名の課員のうち福祉施設へのサポート支援を担当するのは10名。次々と出される国や都の通知を、多忙な現場ではじっくり読み込む時間もないだろうと、簡略化し、蛍光ペンで重要箇所をマーク、わかりやすい文章に変えて、メールや電話等で伝え、対応

変化する状況にあわせ  
細やかなアドバイスを継続

事業所の手間の  
軽減目指し  
福祉課も懸命に支援!



の相談にのりました。外部の人が施設に入ることを控えた団体もあり、訪問することができず、サービスの現場の状況把握にも苦労しました。そうしたことを受けて福祉事業所からは、「市には良くやってもらった。マスクや消毒液のあつせん、各通知の伝達だけでなく、子育て世代への買い物券発行や、ひとり親世帯への米配布など細やかな対応をいつもしてくれて感謝している」との声が多く聞かれました。

陰で見えない努力もありました。「わくわく」を発行し、市内60事業所のネットワークを形成する「調布市福祉作業所等連絡会」事務局は、共同受注のまとめ役を担っていますが、緊急事態宣言下では共同受注が中断したり、在宅に切り替わったために通所者が減って作業が担えず作業所間での交代補充等、さまざまな変更調整が必要となり、対応に追われました。

また、図書メールが一部停止になったことで、会計上の変更が生じ、工賃の各事業所への振り分け計算が実績払いの複雑なものになりました。しかし発注業者や調布市、市民サービス公社等のご理解とご協力を得ながら、各作業所がカバーしあって、共同受注作業の仕事は無事継続することができました。

★ こうして、利用者、家族、施設、スタッフ、福祉課などの関係者が連絡を取り、支え合い、工夫を重ねた結果、調布市の福祉事業所は、コロナ第一波の緊急事態宣言期間、サービスをなんとか持続させながら乗り越えました。

「関わったすべての人が大変だったと思いますが、この体験や得られたノウハウはコロナだけでなく、今後起こりえる震災・

水害などさまざまな場面で使える。コロナ第3波も含め、日々のサービスマスクや、イザという時の対応にいかしていきたい」と亀田施設長は次を見据えています。

★ 一方で、今回のコロナ騒動は、調布市の福祉の現場に大きな課題も残しました。ある福祉事業所は、サービスを止めずに提供しましたが、一方で自粛で利用者が減った結果、緊急事態宣言の期間中だけで、約100万円近い赤字となりました。飲食業や観光業をはじめ、多くの業種が苦しむ中、事業を行なう以上、仕方がないとはいえ、補填などはありません。福祉現場の一翼を担う福祉事業所の経営が立ち行かなくなることは大きな社会問題です。また、市内の福祉事業所で感染者がでなかったことは幸いでしたが、逆を言えば、実際に感染者が出た場合の対応は、まだどこの事業所も未経験で、未知のままです。

★ このような状況下、市と福祉事業所との連携や「福祉作業所等連絡会」の果たす役割にますます期待が高まっています。

## アンケート&取材協力団体

### ●福祉作業所

- ・しごと場大好き
- ・第1・第2・第3ポピーの家
- ・障害者地域活動支援センタードルチェ
- ・旭出調布福祉作業所
- ・希望の家深大寺
- ・ファーストステップ
- ・ちょうふだぞう
- ・はあと・ふる・えりあ
- ・デイセンターまなびや
- ・こひつじ舎

### ●放課後等デイサービス

- ・クレヨンキッズ
- ・にこにこキッズルーム
- ・ぴっころ
- ・ドリームボックス下石原
- ・ふみ月チャレンジ染地
- ・ちょうふの風
- ・わかば 仙川店
- ・という 調布ヶ丘ルーム
- ・ぶくぶく

# コロナに負けるな！ サービスを止めるな！

**各事業所が職員で協議し、工夫した対応で利用者を支援**

生活介護と就労継続支援B型で3つの事業所を運営する「ポピーの家」では、緊急事態宣言の期間中、全事業所を開所する方針をたてました。利用者を午前と午後の2チームに分け、送迎を2便態勢にして昼食を挟まないシフトを新設。机に手作りのアクリル板などを設置し、飛沫感染を予防。プレハブの第1ポピーの家は、急遽、屋根に遮熱塗料を塗り、マスク着用時の熱中症対策を施しました。密を避けるため休憩スペースを作業場所に転換し、利用者間の間隔を確保しました。

調布市社会福祉協議会が運営する生活介護事業所「希望の家深大寺」では、食事提供や外部講師の教室などが中止され、利用者をグループに分け、分散通所を実施。職員の自粛生活にまで細かな注意喚起をして、感染を防ぎつつサービスの提供を続けました。

障害者地域活動支援センター「ドルチェ」では、緊急事態宣言の期間中、総合福祉センター1階にある福祉シヨップ「若草」やイベントなどのプログラムが閉所または中止。サービス中止や自粛疲れで不安を感じる利用者もいて、気をもむもどかしい時間が続きました。

就労継続支援B型事業所とカフェを運営する「ファーストステップ」では4月はカフェを閉店。その後、作業スペースやカフェの

レイアウトを密をさける形に変更して再開。利用者は通所日を減らしたり、長期のお休みを選択する人もあり、比較的に静かな日々が続いたといえます。



ポピーの家では自作で仕切り板を制作。作業スペースに設置した



取材に応じてくれた利用者の面々



多くの福祉事業所でオリジナルマスクを制作。一部では販売している福祉事業所もありました。

## 放課後等デイサービスにも大きな負担がかかる

**密を避け、感染者を出さず、安心できるサービスの提供に苦闘**

障がいのある子どもたちの下校後の活動などを支援する「放課後等デイサービス」でも、さまざま厳しい状況が生まれました。コロナの広がりで急に二斉休校が行われ、その一方で学童クラブや「放課後等デイサービス」は支援の継続が求められました。決め事も次々に変わり、密になりやすい環境の中で、サービスを提供しながら感染者を出さないという命題を突き付けられ、

大変な期間となりました。

小学生対象の「クレヨンキッズ」、中学生向けの「れいんぼー」という2つの事業所を運営する「なないろの会」では、日々の利用者数に合わせてスタッフのシフトを組むことさえひと苦労。リズムが崩れて戸惑ったり、好きな遊びができなくなったり、かんしゃくや軽いパニックを起こす子もいました。公園の遊具が閉鎖されたことも大きな影響を与えました。コロナやそれについての対応への考え方も違う中で、係わり方やマ

ニユアルを統一していく必要もあり、すり合わせにかなり苦労しました。

仙川の「わかば」では、「この期間はただ『大変』の一言だったといいます。『基礎疾患を持つ子どもたちを受け入れながら、密閉空間の中で三密を避けることは不可能。ある意味で覚悟を決めて業務にあたっていた』そう。遠隔療育プログラムや各家庭への電話連絡などを取り入れながら、少しでも太陽にあたる時間を作るなどさまざまな工夫を重ねました。



調布市内のデザイン・印刷会社「アクセスワールド企画」さんが市内福祉事業所に無償提供してくれた「ソーシャルディスタンスシール」

## 連絡会の代表と事務局長が交代しました

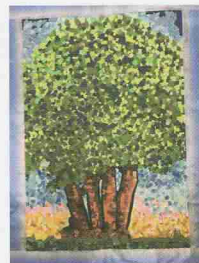


新代表の大澤さん(左)と、事務局長の内藤さん(右)

7月2日の総会で、調布市福祉作業所等連絡会の代表と事務局長が代わりました。新代表は「めじろ作業所」の大澤宏章施設長、事務局長に「わかば第2事業所」の内藤俊明施設長が就任しました。大澤新代表は、「事務局長を6年務め、代表に就任しました。長尾前代表のよい所を継承しつつ、発展させていきたいと思っています。内藤事務局長とお互いの短所を補いつつ、長所を2倍にしていきたいです。加盟団体や事業所が多様化しているため、すべての加盟団体・事業所・メンバー(利用者)・職員がメリットを感じられる組織を目指します」と就任の抱負を語ってくれました。

## 第4回「ポピーの家作品展」を開催

「ポピーの家」の活動紹介を兼ねた作品展が国領駅前の市民プラザあくろす2階で、下記の期間開催されます。副題は「新型コロナに負けない」「元気なポピーの仲間」。ぜひおでかけください。



期間/10月21日(水)～11月4日(水)  
午前8時30分～午後10時  
(最終日午後4時まで)  
問合せ:042-483-4230  
(ポピーの家/高橋)

## 調布市福祉作業所等連絡会加盟団体

- (福) 調布市社会福祉協議会  
調布市希望の家 本場 ☎042-481-7700  
調布市希望の家 分場 ☎03-3305-7737  
希望の家深大寺 ☎042-426-8577  
障害者地域活動支援センタードルチェ ☎042-490-6675  
放課後等デイサービス ぴっころ ☎042-490-6675  
調布市立ゆずのき学童クラブ ☎042-444-6644
- (福) 大泉旭学園/旭出調布福祉作業所 ☎042-485-5885
- (福) くすのき会  
くすの木作業所 ☎042-486-9129  
シェア ☎042-481-1157
- (福) 新(あらた)の会  
はあと・ふる・えりあ/ふあんふあ〜れ ☎042-490-8625
- (福) 調布市社会福祉事業団  
すまいる 本場 ☎042-481-7723  
すまいる 分室 ☎042-426-9481  
そよかぜ ☎042-481-7663  
ちょうふだぞう ☎042-487-4552  
調布市デイセンターまなびや ☎042-442-9552  
ゆずのき学童クラブ ☎042-444-6644
- (福) 調布を耕す会  
しごと場大好き ☎042-486-1022  
しごと場大好き国領 ☎042-444-3733  
カフェ大好き ☎042-481-3933
- (福) 巣立ち会/こひつじ舎 ☎042-488-4433
- (福) 新樹会/創造農園 ☎03-5314-7081
- (N) 爽々苑  
爽々苑 ☎042-480-8294  
爽々苑やわらぎの家 ☎042-481-6262
- (N) 調布心身障害児・者親の会  
びいす ☎042-230-9776  
下石原びいす ☎042-480-5775
- (N) なないろの会 クレヨンキッズ ☎042-490-3933  
れいんぼー ☎042-499-6777
- (N) 高次脳機能障がい者活動センター  
調布ドリーム ☎042-444-3068
- (N) にこにこの会  
にこにこキッズルーム ☎042-499-5660  
放課後等デイサービスふくふく ☎042-444-7807
- (N) 羽ばたく会  
めじろ作業所 ☎042-443-1633  
カフェギャラリーさえずり ☎042-444-8818
- (N) ひなげしの会  
第1ポピーの家 ☎042-483-4230  
第2ポピーの家 ☎042-483-7090  
第3ポピーの家 ☎042-426-7506
- (N) ふみ月の会  
ふみ月チャレンジ染地 ☎042-486-9901  
ふみ月チャレンジたま川 ☎042-446-0633
- (N) ポコポコ・ホッピング  
ポコポコ・ホッピング神代団地 ☎042-483-1114  
ポコポコ・ホッピング富士見町 ☎042-486-5922
- (N) リフレッシュ工房 リフレッシュ工房 ☎042-486-4531
- (N) わかばの会  
わかば事業所 ☎042-486-317  
わかば第一事業所 ☎042-484-1360  
わかば第二事業所 ☎042-488-2870
- (N) エクセルシア  
リサイクルショップ 不思議屋 ☎042-489-3754
- (N) クッキングハウス会 ☎042-498-5177  
レストラン クッキングハウス  
ティールーム クッキングハウス  
クッキングスター
- (N) ちょうふの風 ☎042-444-5514
- (N) ファーストステップ ☎042-426-4223
- (N) らぶらんど らぶらんど調布 ☎050-3578-1395
- (一社) ソスマイル スマイルパークCHOFU ☎03-5315-5981
- (一社) 生活支援ネット  
アーリーバード ☎042-446-2550  
アーリーバード 柴崎事業所 ☎042-499-6030
- (株) ペイフォワード  
放課後等デイサービスわかば 西調布店 ☎03-5969-9047  
わかば 仙川店 ☎042-426-7982
- (株) シエンズ/放課後等デイサービスたんぽぽ ☎042-444-0471
- (株) ファミリーホーム/ドリームボックス下石原 ☎042-444-7155
- (株) メイクバイ・ホールディングス  
放課後等デイサービスグリーンアップル ☎042-444-4216
- (有) アイ・ファクトリー/ハッピーテラス調布教室 ☎024-426-8903
- (N) ゆうゆうくらぶ/ゆうわーく ☎042-430-0844
- (一社) ライフタイムコンディション/KIZUNA調布 ☎042-444-1980
- (株) ココルポート/ココルポート調布Office ☎024-444-4169
- (N) Mito Project/キナリヤ ☎03-6676-9627

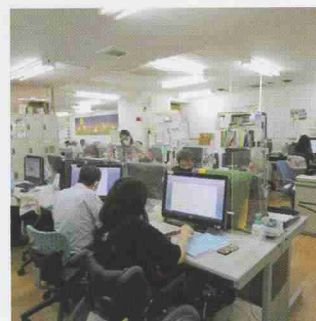
(N)=NPO法人、(福)=社会福祉法人、(一社)=一般社団法人、(株)=株式会社、(有)=有限会社

詳しくは連絡会のホームページをご覧ください。  
<http://chofufukurenaku.sakura.ne.jp/>



## 表紙について

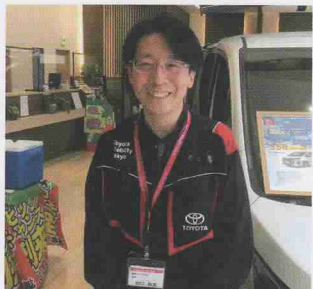
今号は布田駅近くの「めじろ作業所」。コロナ禍の中、布マスクを製作している様子です。マスクは併設された1階カフェで販売中。カフェの奥にある工房では利用者の皆さんがデータ入力などの作業をされていました。



トヨタのショールームに  
ジェラート移動販売車が登場!



トヨタ モビリティ東京 飛田給店の様子



調布つつじヶ丘店 田口慶武店長  
「クッキーもジェラートもお客さまに好評です。ぜひ今後もお願いします」。

この夏、トヨタの「調布飛田給店」と「調布つつじヶ丘店」に「調布を耕す会」のジェラート移動販売車が登場。8月1・2日は飛田給店でガラス張りのショールームの2階に移動販売車が乗り入れ、訪れたお客さまに2日間でジェラート約167個を提供。クッキーや焼き菓子の詰め合わせギフトなども提供しました。8月29・30日にも「つつじヶ丘店」の店頭で移動販売車によるジェラートの提供が行われました。トヨタは2019年4月に販売会社の再編で、市内の販売店が「トヨタ モビリティ東京」に統一され、以来、シニアの体操スペースとして店舗の一部を貸し出したり、店頭で調布野菜の配布をするなど地域連携にもより力を入れています。今後は市内の福祉作業所ともさまざまな連携を行なっていく予定だそうです。

連絡会の  
新しい仲間  
を紹介!

2020年4月に富士見町に開設

社会福祉法人調布市社会福祉事業団  
調布市立ゆずのき学童クラブ

調布市から受託して調布市社会福祉事業団が2020年4月に開設した定員40人の学童クラブです。全ての児童にとって「家庭」「学校」に続く第3の安心できる居場所として、それぞれの子の、その子らしい過ごしや成長を支援していきます。当学童クラブは、定員のうち15人までは障がい児(入会決定において他の学童クラブでは受け入れが難しい等の要件あり)を市内全域から優先的に受入れ、車両送迎も行う等の特長を有した学童クラブです。全ての利用児がともに違いを認め合いながら、仲間となって過ごしていけるよう、職員が仲だちをしながら育成していきたいと考えています。



調布市富士見町4-4-2  
☎042-444-6644(学童クラブ)

若手スタッフ  
リレーインタビュー

第7回

紹介者/「アーリーバード」山野井 恵実さん ▶▶▶

NPO法人「にこにこの会」/にこにこキッズルーム 西村 綾介さん

※このコラムは登場者が次の取材者を紹介していく「リレーコラム」です。



働きながら通信制大学で小学校と特別支援学校の教員免許を取得したそうです



学生時代にボランティアをしたウズベキスタンの写真

次回のリレーインタビューは、「希望の家」の本田裕人さんです。

学生時代からにこにこの会でアルバイト  
海外旅行と走ることが大好きです

西村さんは海外旅行が大好き。学生時代には1年休学してウズベキスタンに滞在。大学卒業後は、JICA青年海外協力隊として2年間西アフリカのセネガルで活躍。時節柄今は行けません。安易に航空券を見つければと飛行機に飛び乗って旅することが趣味です。

学生時代に発達の緩やかな子どもたちの自然体験キャンプのボランティアをしたことがきっかけで福祉の仕事に興味を持ち、大学4年生の時には「にこにこの会」でアルバイトをしていたそう。その後、青年海外協力隊の2年を経て同会に就職しました。

現在、短期入所と、マンツーマンでの外出や通学などの移動支援の管理者、放課後等デイサービスの児童指導員として働いています。

「一人ひとりを主人公と捉えて、場面ごとではなく、広い視野で子どもの気持ちを考えて接するように心がけています。日々素敵だと思わされることや、子どもに励まされることでもあります。つくづく良い仕事に就いたなと思います」と西村さん。走ることも好きで昨年、味の素スタジアムで行われた京王駅伝に職場の有志と参加。区間498人中22位、5kmを21分で走ったそうです。

# life style

このページでは、障がい者の  
生活の1コマをご紹介します。



画集「長谷川清子 心の絵」  
絶賛販売中!

## スルーネット。ピンポンと 絵を描くことが楽しい。

長谷川清子さんはとてもパワフルで明るい。いつも冗談を言っているのでも周りには笑いが絶えない。長谷川さんは右目が見えません。生まれつき弱視でしたが、家族や学校の先生にも気づいてもらえず、小学校時代は黒板が見えず、学校に行かなかったといえます。その後結婚して2児の母となりましたが、交通事故に合い顔を複雑骨折。同時に右目の視力も失ってしまいました。後遺症、さらなるさまざまな病気を重ねる中で、左目も年々見えなくなってきた。今は携帯電話にスレスレまで左目を近づけて画面が見える程度。長谷川さんの笑いには、そういう環境に負けない、明るく生きるという力強い思いが隠されています。

今、熱中していることは、スルーネットピンポンと絵を描くこと。スルーネットピンポンは鉛の玉が入った音の鳴るピンポン玉を、卓球と違って台上4センチに張られたネットの下を転がして打ち合う競技。「障がいに関係なく誰でも楽しめます。歴は7年。仲間と会えることが魅力で、人よりうまくなりたいと燃えています。

絵をはじめたのは60歳の時。描いてみると、まだなんとか目の見えた少女時代のカラフルな情景が蘇ってきました。きれいな着物を着て舞う役者や子どもの頃に憧れた光景。絵を描くことで、「心の中に美しいものが宝物のように眠っていたことを発見できました」と語ります。携帯電話で風景を撮影し、綿棒を使って少しずつ描きます。

息子さんが2人に孫も2人。長谷川さんは充実した生活を満喫しています。